

登所許可証

託児所は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで、一人一人の子どもが一日快適に生活できるよう下記の感染症について登所許可証の発行をお願いします。

感染力のある期間を配慮し、子どもの回復状態が集団での保育生活可能となつてからの登所であるようご配慮ください。

【保護者記入欄】

ぷていふる所長殿	児童名
----------	-----

【医師記入欄】

病名 (主治医記入欄・・・該当に○をお願いします。)	
・ 麻疹 (はしか)	・ 溶連菌感染症
・ インフルエンザ	・ マイコプラズマ肺炎
・ 新型コロナウイルス感染症	・ 手足口病
・ 風疹	・ 伝染性紅斑 (りんご病)
・ 水痘 (水ぼうそう)	・ ヘルパンギーナ
・ 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	・ ウイルス性胃腸炎 (ノロ、ロタ、アデノウイルス等)
・ 結核	
・ 咽頭結膜炎 (プール熱)	・ RSウイルス感染症
・ 流行性角結膜炎	・ その他
・ 百日咳	
・ 腸管出血性大腸菌感染症 (O157, O26, O111等)	
・ 急性出血性結膜炎	
・ 侵襲性髄膜炎菌感染症 (髄膜炎菌性髄膜炎)	

症状が回復し集団生活に支障がない状態になりました。

年 月 日から登所可能と判断します。

令和 年 月 日

医療機関名

医師名

印

感染症名	感染しやすい期間(※)	登所のめやす
麻疹（はしか）	発症1日前から発疹出現後4日まで	解熱後3日を経過していること
インフルエンザ	症状がある期間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した後5日間経過し、かつ解熱した後3日経過していること
新型コロナウイルス感染症	発症後5日間	発症した後5日経過し、かつ症状が軽減した後1日を経過する事（無症状の感染者は、検体再守日を0日目として5日を経過する事）
風しん	発疹出現の7日前から7日後くらい	発疹が消失していること
水痘（水ぼうそう）	発疹出現1～2日前から痂皮（かさぶた）形成まで	全ての発疹が痂皮（かさぶた）化していること
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日経過し、かつ全身状態が良好になっていること
結核	—	医師により感染の恐れがないと認められていること
咽頭結膜炎（プール熱）	発熱、充血等の症状が出現した数日間	発熱、充血等の主な症状が消失した後2日間経過していること
流行性角結膜炎	充血、目ヤニ等の症状が出現した数日間	結膜炎の症状が消失していること
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失していること又は適正な抗菌性物質製剤による5日間の治療が終了していること
腸管出血性大腸菌感染症（O157,O26、O111等）	—	医師により感染の恐れがないと認められていること（※1参照）
急性出血性結膜炎	—	医師により感染の恐れがないと認められていること
侵襲性髄膜炎菌感染症（髄膜炎菌性髄膜炎）	—	医師により感染の恐れがないと認められていること
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間が経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱、潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑（りんご病）	発疹出現前の1週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎（ノロ、ロタ、アデノウイルス等）	症状がある間と、症状消失後1週間（量は減少していくが数週間ウイルスを排出しているため注意が必要）	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に1か月程度ウイルスを排出しているため注意）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	呼吸器症状がある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと

1. 医師により感染のおそれがないと認められていること。（無症状病原体保有者の場合、トイレの排泄が確立している5歳以上の小児については出席停止の必要はなく、また、5歳未満の子どもについては、2回以上連続で便から菌が検出されなければ登所可能である。）

※感染しやすい期間を明確に揭示できない感染症については（－）としている。

厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）より

*一部「学校保健安全法施行規則」を準用